

平成27年度施策評価シート

基本施策	林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持する		
総合計画での位置付け	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	分野	3	林業
主要な計画	・森林整備計画 ・産業振興計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・本市における森林面積は約20万ha、市域の約92%を占めており、市民一人あたり約2haもの森林を有している計算となる。長期にわたる木材価格の低迷や林業の採算性の悪化、担い手不足などにより森林の適正な管理が困難な状況となっているが、森林は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収するとともに、土壌の豊かな保水力による災害の防止や水源かん養など多面的な機能を持ち、私たちの生活において重要な役割を果たしている。</p> <p>・本施策は、豊かで安定した市民生活を営むことのできる基盤として、地域の資源や特性を活かした産業が活発な「にぎわい」のあるまちづくりをすすめるため、林業の振興と森林のもつ多面的な機能を維持することを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当 部署
1 持続可能な生産基盤の整備	ア 計画的な森林整備に向けた地域活動の支援	・森林整備地域活動支援交付金事業として国・県と連携して森林整備に不可欠な森林の現況調査、境界の明確化、作業路等の整備を実施する個人や事業体の活動を支援した。	農政部
	イ 市有林や個人有林の適切な施業管理、森林病害虫対策の推進	・平成21年、荘川町においてカシノナガキクイムシによる被害が確認されて以降、荘川・国府地区において予防を、また荘川・国府・上宝地区において駆除を行った。 ・市有林を適正に管理するため、森林経営計画に基づき、間伐や枝打ち等の施業を計画的に実施した。 ・市有林を活用し、建設業者等の利用間伐に対する森林施業技術のレベルアップ対策を行った。 ・緑の保全事業で間伐、除伐、枝打ち等の森林整備事業に対し支援した。	農政部
	ウ 木材需要の拡大の推進	・平成21年度から始まった匠の家づくり支援事業では、当初市産材の使用に関する条件が無かったが、H24から市産材を1㎡以上使用する条件を設け、また、平成25年度からは市産材の使用量に応じて補助金額を交付するように、制度の見直しを進め、市産材の需要拡大を図った。 ・公共施設においても、学校を中心に木造への建替えや施設内装の木質化等を行っており地元材の需要拡大を図った。	農政部
	エ 森林整備を安全かつ効率的に実施する高性能機械の導入の推進	・林業事業者の高性能林業機械の導入に向けた情報提供などの支援を行った。	農政部
	オ 間伐材などの森林資源を活用したあらたな産業創出の推進	・間伐材を割り箸や木質燃料として利用するなど、森林資源の有効活用を支援した。 ・木質バイオマス活用促進事業補助金により、薪やペレット等の木質バイオマスの利用促進を図った。 ・自然エネルギーによるまちづくり検討委員会において木質バイオマスエネルギー利用の検討をすすめた。	農政部 環境政策
	カ 特用林産物の振興	・現況調査を実施し、特用林産物の生産状況の推移を把握した。	農政部
	2 あらたな担い手の確保	ア 林業事業者の育成・強化	・森林組合が毎月行う「経営進捗会議」に出席し、農林事務所や経営コンサルタントなど同席のもと、意見交換を行い、経営の安定化を図るとともに、あらたな担い手の確保、育成に努めた。
イ 林業グループの育成・強化		・地域の林業グループの活動(グループ員の技術向上、一般市民への普及啓発等)に対し、県の補助を活用し活性化を図った。	農政部
ウ 森林所有者に対する森林整備への働きかけ		・地域座談会や林業関係団体の会合に参加し、国・県の補助制度や市独自の補助制度等について説明し、積極的な森林整備を働きかけた。	農政部
エ 異業種連携による林業振興体制構築の推進		・地域の建設業者と森林組合の協働によって、森林施業の集約化を行い、高性能林業機械の活用と、路網整備による低コスト木材生産システムの確立に向けた取り組みを支援した。	農政部

3	備林業関連施設の整備	ア	林道・作業道などの整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な森林の管理・利用に不可欠な林道の維持管理や作業道等の林内路網の整備を行った。 ・県代行事業、国・県の改良事業等を活用し、林道の開設及び改良を実施した。 	農政部
		イ	木材流通加工施設の有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合の「経営進捗会議」を通じ施設の運営方法の見直しを進めながら、顧客のニーズに沿った製品を提供し、経営の安定を図るよう支援した。 	農政部
4	森林の保全	ア	森林の多面的な機能を理解し森林を大切にす意識の醸成・高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで考え、生かす森林づくり」を合言葉に地域単位で森林づくりを推進するため、地域ごとの会議等において啓発活動などを行った。 	農政部
		イ	森林の無秩序な伐採・開発の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・伐採及び伐採後の造林の届出等を指導し、無秩序な伐採や開発の抑制を図った。 ・平成24年度から、森林の土地の所有者届出制度が始まり、新たに森林の所有者になった場合は届出ることになり、森林伐採・管理上の基礎情報を集積した。 	農政部
		ウ	都市部の自治体や企業などとの連携による森づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加で、ふるさとの森を守り育てる活動を推進するため、「美しい森林づくり事業」を毎年開催したほか、企業との協働により森づくりを推進する「企業の森」活動などを実施した。 	農政部
				<ul style="list-style-type: none"> ・都市部の自治体(東京都千代田区、港区)とカーボンオフセットに関する協定を締結し、間伐等の森づくりをすすめた。 	環境政策
		エ	森と親しみ林業を知る機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加で、ふるさとの森を守り育てる活動を推進するため、「美しい森林づくり事業」を毎年開催したほか、企業との協働により森づくりを推進する「企業の森」活動などを実施した。 	農政部
オ	保健休養や自然観察の場である生活環境保全林の有効活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで、だれもが安全に利用しやすい保健休養の場として、生活環境保全林の維持管理を行っている。また、利用拡大を図るためホームページや広報などを活用し、PRを行った。 	農政部		

2 指標の推移

指標名	単位	関連施策	好ましい方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
間伐実施面積	ha	1-ア 1-イ	↑	1,550	1,470	1,597	1,748	1,109	1,006	2,000
ナラ枯れ予防処理	本	1-イ	↓	-	100	91	48	125	73	100
ナラ枯れ駆除処理	本	1-イ	↓	-	207	110	87	53	45	60
市有林間伐等施業実施面積	ha	1-イ	↑	299	189	187	36	35	44	30
市有林施業管理面積	ha	1-イ	↑	861	1,050	1,237	1,273	1,308	1,341	1,346
市有林利用間伐面積	ha	1-イ	↑	0	2	22	25	8	33	20
市有林作業道開設延長	m	1-イ	↑	0	0	5,136	728	1,000	908	1,000
間伐・除伐・枝打ち等実施面積	ha	1-イ	↑	730	430	399	266	178	248	500
建築棟数(匠の家づくり支援事業利用)	棟	1-ウ	↑	38	76	63	74	117	108	117
市産材利用率(県産材に対する市産材の割合)	%	1-ウ	↑	-	-	59	82	92	98	90
木材生産量	m ³	1-ウ	↑	-	-	58,000	83,000	89,000	未確定	60,000
未利用資源、間伐材利用促進事業量	m ³	1-オ	→	12,868	13,078	13,450	16,105	20,786	20,459	16,000
ペレットストーブ等導入台数	台	1-オ	↑	108	97	98	82	92	79	106
林業従事者数	人	2-ア	↑	170	161	200	212	193	未確定	220
林業グループ活動回数	回	2-イ	→	10	8	8	11	7	6	10
林業グループ参加人数	人	2-イ	→	147	149	157	119	89	62	120
林道維持管理	箇所	3-ア	→	46	41	51	59	77	53	60
林道宮・高山線開設延長 (全延長11,150m)	m	3-ア	↑	-	9,160	9,160	9,160	9,782	9,969	200
林道駄吉線舗装延長 (全延長12,744 H26終了予定)	m	3-ア	↑	9,873	10,308	10,308	11,046	12,164	12,744	580
間伐材利用に係る集運材量	m ³	3-イ	→	12,868	13,078	13,450	16,105	20,786	20,459	16,000
都市部とのカーボンオフセット事業 による二酸化炭素吸収量	t-CO ₂	4-ウ	↑	-	-	-	96.04	120.26	91.62	78
美しい森林づくり事業参加者数	人	4-エ	→	81	266	210	200	200	150	250
生活環境保全林利用者	人	4-オ	↑	136,344	152,934	109,361	160,395	151,538	125,772	160,000

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために改善等を行う優先度	
H21	点数	46.2	(平均) (54.6)	78.5	(平均) (79.7)	Ⅲ	やや低い
	順位	42施策中 36 番目			42施策中 24 番目		
H25	点数	43.9	(平均) (56.9)	82.3	(平均) (81.8)	I	高い
	順位	43施策中 40 番目			43施策中 22 番目		
H27 (今回)	点数	43.3	(平均) (56.0)	82.0	(平均) (81.2)	I	高い
	順位	43施策中 39 番目			43施策中 18 番目		

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		環境政策部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
4	森林の保全	<ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス活用促進事業補助金による薪、ペレットなどの木質バイオマスの利用を促進した。 千代田区との森林整備(カーボンオフセット)協定により、平成24年度より一之宮町地内で間伐等を実施した。 「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」の更なる活用が図られるように関係機関への働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ペレット等の木質バイオマスの利用促進を図るとともに、山側と連携しながら木質バイオマスを活用した事業化の検討を行う。 森林のCO2吸収量の拡大を図るため、千代田区や港区との更なる連携強化を図るとともに、高山産の木材流通の促進が図られるよう積極的なPRや関係機関への働きかけを行う。

担当部局		農政部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	生産可能な整備	<ul style="list-style-type: none"> 森林の整備支援、施業管理、高性能機械の導入支援、森林病害虫対策を実施し、持続可能な生産基盤を整備した。 木材需要を拡大し、間伐材などの森林資源の新たな産業を創出し、特用林産も振興した。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く多様な施策を適切に実施する事で森林を持続可能な生産基盤の整備を推進する。
2	いあらたな確な負担	<ul style="list-style-type: none"> 森林組合をはじめ、市内の林業事業者及び林業グループを育成・強化した。 森林所有者への働きかけにより、森林整備への意識を向上させた。 異業種連携による林業振興体制構築を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の事業者や林業グループを支援し、育成・強化を推進する。 森林所有者の森林整備を支援する。 異業種連携による低コスト木材生産システムを構築する。
3	林業関連施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> 林道維持管理については、緊急かつ重要な路線を優先的に修繕した。 駄吉線の林道改良(舗装)が完了し、宮・高山線の林道開設を実施している。 作業道等の林内路網については、各事業者等が必要に応じて整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な森林の整備や木材生産には、林道、作業道等の林業関連施設の整備が必要不可欠であり、国・県の事業等を有効に活用しながら、整備を実施する。
4	森林の保全	<ul style="list-style-type: none"> 市民をはじめ、都市部の自治体や企業等と連携し、森林づくり交流事業等を実施し、生活環境保全林の維持管理、PRを実施した。 伐採届の指導、森林の土地所有者届等を通じて、無秩序な伐採・開発を抑制した。 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい森林づくり交流事業や生活環境保全林の維持管理等を通じて、森林の多面的な機能の理解や森林を大切にす意識の醸成・高揚する。 伐採届や森林の土地所有者届等の制度を遵守し、森林の無秩序な伐採・開発を抑制する。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、 ・豊富な森林資源が十分に活かされていない。 ということが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度が低く、今後の重要度がやや高くなっていることを踏まえ、森林整備計画などに基づき、持続可能な生産基盤の整備や森林の保全などに取り組んでいく必要がある。 特に、木質バイオマスとしてのエネルギー利用や環境と林業の融合による新たな施策の展開などにより森林資源の有効活用を図っていく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・戦後造成された森林資源が成熟し利用期を迎える中、計画的な森林整備に向けた支援や木材需要の拡大推進に向けた支援により持続可能な生産基盤の整備や取組は徐々に進んでいるが、まだまだ十分とは言えない。特に建設業の林業への進出支援などによる新たな担い手の確保も進んではいるが、木材価格の長期低迷により林業事業者の絶対数が大きく減り、間伐材や未利用材などの活用による木質バイオマスエネルギーの利用が急激に増える中、原木供給が追いついてはならず、さらなる事業者の育成支援など担い手確保と低コスト化に向け皆伐施業やその後の植栽事業まで含めた新たな施策と支援が必要である。 ・高山市も「自然エネルギー利用日本一の街」を目指しておりこれから確実に木材需要が増える。しかし一番身近で一番豊富にある森林資源の有効利用と健全で豊かな森林づくりは森林の持つ多面的な機能を損なわれないように計画的に実施しなくてはならない。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア	53285	森林整備活動支援事業	60	51,665	40,192
1-イ	53220	森林被害対策事業	70	2,783	1,765
1-イ	53201	市有林管理費	70	35,254	39,096
1-イ	53218	緑の保全事業	60	52,512	55,688
1-ウ	21815	匠の家づくり支援事業	90	35,114	33,511
1-オ	21810	木質バイオマス活用促進事業	50	9,001	7,967
2-イ	53221	林業改良普及事業	70	400	500
3-ア	53100	林道維持管理費	70	75,902	26,265
3-ア	53242	林道開設事業費	90	6,178	8,662
3-ア	53255	林道改良事業費	90	28,501	15,696
3-ア	53209	緑資源幹線林道賦課金元利補給金	60	19,450	15,144
4-イ	53110	林業関係事務費	60	2,925	2,971
4-ウ	21805	森林づくり交流推進事業費	60	5,276	3,967
4-オ	53256	生活環境保全林管理事業費	80	8,413	8,468
4-エ	53280	林業振興関係事務費(美しい森林づくり)	60	2,543	665

平均点	H25年度	H26年度
69.33	335,917	260,557